

文久二年

(二月〜四月、日記ナシ)

(五月)

(五月一日〜十五日、日記ナシ)

(五月) 十六日

此日、元之助事病氣あしくゆへ、梶木町え参り、由松殿たのみ候て、木津母さま呼に居て、到来候。昼後、母さま真にあんして御こし遊し候。此時、森良薬さま御見舞下され候。此日、森若さま画の入門致され候。此日、短冊認、夜三更迄作図。此日、木津御坊徳明史、見舞に参られ候。母さま夕暮より木津え帰られ候。

\*あんして(案じて)

(五月) 十七日 カ

朝、後藤え参り、稽古して帰り、短冊認、十八枚認上ル。又全紙雁認。此朝、森若さま御見舞下され候。夜四更迄、作図する。此日、阿波や、ロノ帯墨竹頼みに参られ候。此日、若林え文出。

\*ロ(紹)

(五月) 十八日

朝、後藤え参り、稽古して帰り、全紙雁認上ル。又呂の帯認上ル。此日、森若さま御見舞被下候。夜三更迄読書する。

\*呂(紹)

(五月) 十九日

朝、後藤え参り、稽古して帰り、写し物する。此日、森若さま御見舞下され候。此日、京木津勘より文参る。宮原、又堺三之助、堺灘新、又灘若林、皆々文参る。堺具市え文、画出す。京木津えも。夜、写し物、三更迄。

(五月) 廿日

朝、後藤へ参り、稽古して帰り、呂の帯の草稿認。此日、私、からたひとく寒け立、とうやら痲疹らしく候へとも、帯明日中と申事ゆへ、此日、墨書計する。夜、早寐する。

\*呂(紹) \*からた(体)

(五月) 廿一日

朝、からた追々あしく候へとも、帯認ル。寐たり起たりして認候へとも、とふもづゝなさに、昼後は得認不申。此日、森若さまに見てもらい候へは、弥麻疹にて御坐候様可申候。  
\*づゝ(術)

(五月) 廿二日

此日、追々病氣あしく候て臥。森若さま見舞被下候。

(五月) 廿三日

此日、追々病氣苦しく候て臥。森若さま見舞被下候。此日、迹見御院主さま、中城より帰られ候て、私方寄られ候。御院主さまニ、私病氣のよし、木津母さまえ伝言致し候。田尻さまも、もはや病氣本腹出来かたくよし也。

(五月) 廿四日

此日、病氣追々苦しく相成、八ツ後時より木津母さま御こし下され候。此朝、堺三之助事、病氣見舞ニ参り候。此日夜、田尻さま病死致され候。此夜、母さま一宿致され候。森若さま見舞れ候。

(五月) 廿五日

此日、病氣殊更苦しく、発シ物少々見へ候。三之助事、五日の御暇願ひ候て、かいほう致し候。此夕、母さま木津え帰られ候。夜、苦しく候て、夜通し不寐。森若さま見舞れ候。  
\*かいほう(介抱)

(五月) 廿六日

此日、発し物沢山出候て、極苦しさに到、夜通し不寐。

(五月) 廿七日

此日、瀬戸、真に苦しく、夜、せきにて不寐。

\*せき(咳)

(五月) 廿八日

此日、少シよろしき方え向、発し物少々引。森若さま見舞れ候。

(五月) 廿九日

此日、少シよろしく候。此日、三之助事、堺え帰り、今五日御暇願ひ候へは、御聞濟有て

(以下、記述ナシ)

(六月)

六月朔日

此日も追々よろしく候て、三之助事帰る。此夕より三之助事はしかの気色有。

\*はしか(麻疹)

(六月) 二日

此日も追々よろしく候へとも、又々目あしく、大るに困り入候。真に病氣中、辻さまより日に二、三度ほど宛御見舞下され、誠にく有かたき事、此うれしき忘れかたく候。三之助事、此日も少々あしく候候へとも、またくふす所えハいたらず候。

\*候(衍)

(六月) 三日

此日も追々よろしく候へとも、目とせき、いまた絶かたく候也。三之助もはや麻疹追々あしく候て臥。

\*せき(咳) \*絶かたく(堪かたく)

(六月) 四日

此日も追々よろしく候へとも、目いまたあしく候。此日、三之助事、森若さま見舞てもらい候へは、弥麻疹と相定り候。

(六月) 五日

此日ハ私もはや寐間あけて、起てふらくする。三之助事ハ追々あしく候。此夜一更後迄手習する。此日、木津徳明子、見舞に参られ候。

(六月) 六日

此日ハ私少々よろしく候て、終日寐たり起たりして、読書する。此夕、森若さま見舞れ候。三之助事は麻疹少々発し候。此日暮、木津兄若衆大せい参り、台額の鉾の幕の竜、画てほしくと申て、頼みに参られ候へとも、私病氣にて断申候。

(六月) 七日

此日、三之助事、麻疹身体一面に発候。私、此日、木津宗隆さまの木刀に黒漆にて画認。夜三更迄手習する。

(六月) 八日

此日、三之助事、病氣少々よき方え向候也。私事は木刀認上ル。又竹煙草入え直齋好の蟹認ル。

(六月) 九日

此日、煙草入認上ル。又呂の帯、竜認、片面虎の尾、草花認上ル。此日、森若さま見舞れ候。

\*呂(絹)

(六月) 十日

此日、画の草稿認ル。

(六月) 十一日

此日、終日画の草稿認ル。

(六月) 十二日

此日、絹地ジャウト姥認、大かたに認上ル。此日、木津御坊より十助参り、きのふ智明院さま中城より帰られ候、播州真光寺夫婦御子さま連て木津え参られ候よし申来り候。

\*ジャウ(尉)

(六月) 十三日

此日、終日絹地和美人認ル。是大かたに認ル。此朝、シヤウト姥認上ル。此八ツ時後より父さま木津え参られ候。又暫して三之助病氣少々宜しき候二付、木津え帰り候。此夕三更ニ父さま帰られ候。此日、おふしさまより呂の帯頼みに参られ候。

\*シヤウ(尉) \*呂(絹)

(六月) 十四日

此朝、後藤さまより使参り、御親造さま麻疹内にて去死致され候よし、しらせに参り候。此昼前、私事、辻さま久々にて、お久のさま麻疹御見舞に参り候。是か去月廿日より始ての他行也。和美人認上ル。此日、半切物十三枚認、又横物三枚認。此七ツ時より父さま木津え帰られ候。一更二帰られ候。

\*御親造さま(御新造さま) \*内にて(内攻にて) \*去死(死去)

(六月) 十五日

此日、木津さまの銘酒入認ル。此夕、三之助木津より帰り候。

(六月) 十六日 髪結

朝より掃事致し、昼後より呂帯認ル。此夕、父さまと五霊さまえ参る。此帰り懸、私一人、辻さまえ御見舞に参る。暫咄して、帰り候。

\*掃事(掃除) \*呂(紹) \*五霊さま(御霊さま)

(六月) 十七日

此日、五霊さま神事にてやすみ。誠に近年二なき淋しき神事ニ御坐候。此日、木津母さま病氣にて、飛脚申て参り、昼後、父さま木津え帰られ候。

\*五霊さま(御霊さま)

(六月) 十八日

此日、私少々気もあしくゆへ、終日あそひ、此夕、少々夜ナベ致し候。

(六月) 十九日

此日、絹地あんとう二組認上ル。此夕、木津お千枝さま御こしにて、鍋島え涼みに参る。

此二更時に父さま木津より帰られ候。

\*あんとう(行灯)

(六月) 廿日

此日昼後、木津お千枝さま御こしにて、ハシヤウ布ノウレンに散紅葉頼みに参られ候て、早速認上ル。此日、上田さまえ御見舞に参る。

\*ハシヤウ布(芭蕉布) \*ノウレン(暖簾)

(六月) 廿一日

此日、草稿認。此七ツ時、木津十助参り、又々母さま病氣あしくゆへ、父さま呼に参り、早速帰られ候。

(六月) 廿二日

此日、草稿認。此朝四ツ時より、辻宗兵衛さま麻疹病中にて、私方え遊ひに参られ候。八ツ時に帰られ候。

(六月) 廿三日

此朝、辻宗兵衛さま御こしにて、画を頼れ、細物に二幅対、一幅物三枚認、扇子一本認。八ツ時に帰られ候。此日、堺中新より文参る。此日ハ誠に九月頃の様ひへるひにて、くらしにくきほと也。

\*ひへるひ(冷へる日)

(六月) 廿四日 髪結

此朝、父さま木津より帰られ候。朝より箒事致し、昼後、辻さまえ風呂到来に参る。此日、土用の入にて、**おはきのあんころ**呼れ候。暫して帰り候。播州一枝さま、かく丸さま、もり、三人連にて御こし遊し候。右の、もり咲と申女中、船に酔、楼にて臥。此夕、一枝さまと私、同道にて鍋島え参り候。鍋島の景庭、真に八月月見頃の様子にて、誠に**さひしき**事、**かん心**致し候。大江橋にて納涼致候処、父さま、かく丸さま連て来られ候。又皆々堂島え参り候処、是も**かく別**に淋しく、**閑鼓の鳥**か鳴ぬ計に御坐候。此日朝、紀州栗林明王院、三宅駒三郎さまの事に付参られ候。談事良暫有て、帰られ候。

\*箒事(掃除) \*おはき(お萩) \*あんころ(餡ころ) \*もり(守り) \*もり(守り)  
\*さひしき(淋しき) \*かん心(感心) \*かく別(格別) \*閑鼓の鳥(閑古の鳥)

(六月) 廿五日

朝よりゴテくして**くらし**、昼後八ツ時より、播州治部卿さま、大部さま、下男二人、小艇に棹さして参られ候。此時、私、辻さまえ暑中見舞に参り、早速帰り、お客さまえ薄茶出す。此後、一酒一肴出す。暫飲して、お客不残小艇に乗られ候て、御渡拝見致され候。渡御済て、御客、船よりすぐと帰られ候。私、木津子たちつれて、唐津の涼みえ参り、お安さまと遊び、御渡御帰り迄居る。御渡済て帰る。此時、木津御坊重助参り、二位さま麻疹にて**身体ちめたく**相成られ候由にて、父さまを呼に参り、早速木津え帰られ候。此時、三更。此日、京師姉さまより文、**かんさし**参る。

\*くらし(暮らし) \*ちめたく(冷たく) \*かんさし(簪)

(六月) 廿六日

此日、終日草臥てこてくして**くらし**候。八ツ時、宮原直さま御こし遊し、誠に久々にて見忘れ候事也。是も五年目に逢候事也。暫御咄し有て、帰られ候。

(六月) 廿七日

此朝、父さま木津より帰られ候。二位さまも少々よろしきよし也。昼後より**団認**にかゝる。此昼前、六条前田参られ候。昼飯上ル。久しく咄して、八ツ後時に帰られ候。此後、尚五郎さまより呼に参り、早速皆森さまえ参り候処、唐津山田さま、雲洞花鳥極彩色表具仕立出来成て参り、それを見せたくと申て参り候事ゆへ、山田さま参り、画拝見する。然し見くるしき画也。外に色々軸物見せられ候。一酒戴、又御飯呼れ候て帰る。日暮也。

\*団(うちは)

(六月) 廿八日

此日、**からたまけ**にて、**はら**あしく也。**団**認。此昼前、徳明子参られ候て、暫法道の咄しして、八ツ時後より**親覽聖人**様の御木像 高野山にて御自作有られ候也、其外色々珍品物開帳に参られ候。七ツ時に帰られ候。此開帳参り、父さまと徳明子と也。夕方より父さま、木津さまえ行れ、一更二帰られ候。此朝、紀州**若山**三宅治左衛門より文参る。

\* からのた(体) \* まけ(負) \* はら(腹) \* 団(うちは) \* 親覽聖人(親鸞聖人)

\* 若山(和歌山)

(六月) 廿九日

此日、**うちハ**十二本認ル。日暮より父さま木津え帰られ候。此日、焼野大部さま痲疹にて死去。

\* うちハ(団扇)

(六月) 晦日 髮結

朝より半切物認。昼後八ツ時より後藤さまえ暑中見舞に参り、先生と暫咄して帰り、山上え見舞行。それより井上さまえ暑中見舞に参り、又暫咄して帰り候。夕方より唐津山田さまえ遊びに参り、一更二帰り候て、三更迄詩作する。此日朝、父さま木津より帰られ候。

(七月)

七月朔日

朝より父さま木津天王寺楚山先生え暑中見舞に参られ候。此日、細物、又半切物認。父さま、一更前に木津より帰られ候。門にて納涼致され候処、真東の方より珍星登り懸、真赤にてよほど大きく、足早星也。夜三更二臥。読書、認物。

(七月) 二日

朝、後藤え参、稽古致、木津さまえ参り、御茶一服吸て、暫咄して帰り、百寿認。二更後迄読書。

(七月) 三日

朝、後藤え参り、稽古致、帰り懸、辻さまえ寄、昼前迄咄し有て帰る。此夕、父さま木津さまえ行れ、一更二帰られ候。私、**風者**にて早寐する。此日、京師姉小路様え暑中見舞出す。

\* 風者(風邪)

(七月) 四日

朝、後藤え参り、稽古致、木津さまえ参り、茶の稽古致し、帰り、短冊認。此日、堺三之助方より文参る。此夕、唐津山田さまえ参り、画の稽古致し、一更二帰り候。此日八ツ後七ツ時より父さま木津え帰られ候て、一更後二帰られ候。此夜、終夜する。

(七月) 五日

朝、後藤え参り、稽古して帰り、此時、辻さまえ寄、昼前迄咄しする。帰り、短冊認ル。此日、父さま方々え団調に参られ候へとも、とんとく御坐なく候て、大困りく入り候。私、又此度掛物講してやると申て加島屋九八さま御世話下され、其講の配り物に団認てと申事にて、□えあつらへ候へとも、ねから間に合す、節前の事ゆへ、ひどく急き居り候へとも、おもふやうにならず、もはや節後と相定め候処、ふと屋に団御坐候て、又此日、団認ル。一更二臥。

\*団(うちは) \*団(うちは) \*ね(根) \*団(うちは) \*団(うちは)

(七月) 六日

此朝、芝村人参られ候て、暫咄し有て帰られ候。此時、父さま堺え懸物持参して行れ候。此日、団認、又短冊認ル。此夜二更二堺より帰られ候て、夫より色々こしらへ物致し、四更二臥。

\*団(うちは) \*こしらへ(拵へ)

(七月) 七日

明六ツ時より起て、父さま中城え行れ候。此日、私気分あしく候て、画も認められず居候処、此日七ツ時より腹いたみにて上通し、下りも少々有、夜通し致し、夜の明るを待て、(翌日へ続く)

\*上通し(あげ通し)

(七月) 八日

朝、元之助、梶木町木津さまえしらせに遣し、又幸助殿、木津母を呼にいてもらい、百孫さまより、色々くす湯、或いはかん瀑なそ下され、又々かゆたいてもらい候て、此日、漸しのき候也。元之助事も朝かたより上下しにて、兩人共同様也。此朝、幸助殿、木津より帰られ候へとも、母事風引にて、夕方より参ると申事に候也。又此朝、御坊徳明子参られ候。私、病氣見舞れ、母事ひとくあんし居られ候ゆへ、徳明子を以て尋くれられ候。昼前に帰られ候。此夕一更、二更迄、母さま御来し待居り候へとも、ねから御こし無之候。此夜、辻おあいさま、ふと御こしにて、色々咄し致され候。

\*くす湯(葛湯) \*かん瀑(寒晒) \*かゆ(粥) \*上下し(あげくだし) \*あんし(案じ) \*ね(根)

(七月) 九日

此朝、堺三之助方より文参る。此日ハ気分もよろしく、そろ／＼と起てかゆなそを煮たり致し、昼後、細工物面認、鴻池よりのとうろう認ル。此日、森若さま、御見舞下され候。此七ツ時より元之助事、木津え送らし候也。元之助事あまりさひしかり候ゆへ、キ幸助殿頼、木津え送らし候。

\*かゆ(粥) \*とうろう(灯籠)

(七月) 十日

此朝、又気分あしく、独いたしかたなく、幸助殿、木津よりの返事もなく、母事病気いかゝに候哉、それも聞たく、昼前、木津宗え参り候へは、母も病気あしくよしにて、暫木津宗にて寐たり起たりいたし、昼飯かゆ呼れ、八ツ後時に辻さまえ帰り、辻御後室さま、ひとくあんし居られ、又々沢庵やらおこげもらい候て、暫辻さまに居り、此時より気分大分よろしき方ニ相成、宅え帰り、おこけのかゆ煮て夕飯いたし候。此夕、キお千枝さま御留り下され候。

\*かゆ(粥) \*あんし(案じ) \*かゆ(粥) \*御留り(御泊り)

(七月) 十一日

此朝も大気分よろしく、かゆなそをたいて、朝飯いたし、此昼飯は、辻おあいさまよりこしらへて下され候。終日、寐たり起たりして暮らし、此夕、キ千枝さまお留り下され候。

\*かゆ(粥) \*こしらへ(拵へ) \*お留り(お泊り)

(七月) 十二日

此朝、父さま帰られ候。父さまも、七日の日、船に乗られ候て中城迄行れ、此船中にて腹下りにて、三島江より船よりあかり、ふら／＼と中城迄行、中城にて二宿致され、九日の日、津田尊光寺へ行れ、夫より京師寺町へ行、又姉小路さま行れ候よしに候也。此日も終日遊ひくらし致し、夕、梶木町え木津え参り、お蓮さまと三庭見物に歩く。今年ハよほと淋しく候也。

\*あかり(上かり)

(七月) 十三日

此朝、父さま天王寺楚山先生え御礼に行れ、又木津えも行れ候。此留主中、岸畑さまよりの灯籠、又井上さまよりの灯籠二組認ル。此日ハ朝より雨中、終日也。夜一更迄読書、手習する。此一更二父さま木津より帰られ候。父さま此日ハ天王寺楚山先生え得参られす候。

(七月) 十四日 カ

朝、天気能、昼後、雨中。此日、コテ／＼して、扇子一本認切。夜一更迄読書。

(七月) 十五日

此日朝、風雨中、五ツ時に雨ノ上大風。此朝、父さま方々御礼行れ候。私、昼後より辻さまえ参り、暫咄して、又井上さまえ参り、又暫咄して、木津さまえ参り、お千枝さまと同道にて細矢え参り、お茶呼れ、七ツ時迄遊ぶ。夫より帰り、夕飯して、鳥津山田さまえ参り、おやすさま、十三絃、三絃和す。一更二帰り候。夫より手習して、五更二臥。

\*鳥津(唐津)

(七月) 十六日

此朝、父さま木津え帰られ候て、八ツ後時に中之島え帰られ候。此七ツ時前より、辻宗兵衛さま呼に参られ候て、父さま行れ候。此夕一更迄、子たち躍、我門前に有。父さま日暮過て帰られ候。此昼後、芝村人参られ候。此日、尚五郎さまよりの短冊認ル。

(七月) 十七日

此朝、父さま天満卯野え行れ、昼前に帰られ候。此朝、梶木町より呼に参られ候て、昼後より梶木津え参り、応挙屏風一組秋草花写しに参り候。帰り、絹地江戸美人認にかゝる。此日、墨書する。此日、辻さまえ風呂到来に参る。

(七月) 十八日

此日より子たち稽古初にて来られ候。此昼、辻さま地蔵さまの御供養呼れに参る。帰り、美人認ル。此夕方、元之助事、木津母さま病氣あしくよし申て参り、父さま、早々木津え帰られ候。

(七月) 十九日

昼より画認にかゝる。此日、辻さまえ入湯に参る。暫おしへして、帰り候。夕一更二臥。

\*おしへ(教へ)

(七月) 廿日 カ

朝より草稿認、昼後、美人にかゝる。美人認上ル。此夕一更迄納涼して、四更二臥と存し候処、南両御堂の間出火、よほど大火に候。夜明て五ツ時迄焼ル。此夜火事中、元之助事、草稿持参して楚山先生え参る。

(七月) 廿一日

明六ツ時に父さま木津より帰られ候て、又火事に行れ候。五ツ時に帰られ候。此朝、堺三之助帰り候。此昼後、雷鳴有、夕立。此夕、唐津山田さまえ参り、美人画見せてほしく仰られ候て、持参いたし候処、山田さまひとく感心致され候。夫より画の稽古して一更二帰。

此朝、後藤え参り、稽古して帰り、襖草稿認ル。此夕、元之助事、帰る。

(七月) 廿一日

朝七ツ起にて、三之助事、堺え帰り候。此朝、後藤え参り、稽古して帰り候。扇子、短冊認。加州役人の頼み(に)候。此日、辻さまえ入湯参る。早速帰る。此日暮、父さま木津より帰られ候。此夕、幸助、**あん**と認頼みにくる。夜ナベして認ル。読書、三更二臥。

\*あん(行灯)

(七月) 廿三日

朝、父さま卯野え参られ候て、又木津え帰られ候。私、後藤え参り、稽古して帰り候。**あんど**二組認、又短冊認。鴻市よりの花籠の草稿認。夜読書、三更迄。

\*あんと(行灯)

(七月) 廿四日

朝、後藤え参り、稽古致し候処、木津さまより呼に参り、稽古済て参り候処、田淵さま認物の談事有。此日、稽古日に候へとも、茶も**のます**に早々帰り候。昼後より元之助事、木津え帰り候。八ツ時より大風にて、又大雨。此七ツ時頃、私、辻さまえ参り、入湯して夕飯呼れ、大風雨中、帰り候。此夜、縫物する。三更二臥。夜通し大風雨。

\*のます(飲ます)

(七月) 廿五日

此日ハ朝より腹症にて、寐た(り)起たりして、終日暮らす。此昼後時、勝間長源寺**主寺**参られ候。画の認物の相談有、早速帰られ候。日暮、父さま、元之助、帰られ候。此日昼時より大水出、日暮、洲の草もかくれ候。夜三更迄詩作する。

\*主寺(住持)

(七月) 廿六日

朝、後藤え参り、稽古して帰り、読書する。又草稿認ル。八ツ時より辻さまえ参り、入湯する。父さま、元之助事ハ瀬戸物町え作り物見に行れ候。日暮、帰られ候。此時、梶木町より幸助死去しらせに参る。此夜一更前迄納涼する。父さま梶木町え行れ、二更二帰られ候。

(七月) 廿七日

朝、少々腹症にて昼迄臥。昼後より絹地七福神墨書する。夜、読書、四更迄。

(七月) 廿八日 カ

朝、後藤え参り、稽古して帰り、七福神認。此日、認上ル。夜二更後迄詩作、読書。

(七月) 廿九日

朝、後藤え参り、稽古して帰り、短冊認、十枚。夜四更迄読書、画の草稿認ル。

(八月)

八月朔日

早朝より木津お千枝さまと同道にて木津え帰り候。お千枝さま、墓参詣也。私、唯専寺え参り、暫咄し有て、帰り候。又唯専寺より呼に参り、昼飯呼れ候。此昼後八ツ時より天王寺楚山先生え参り、暫画談有。此日、楚山先生急認物ゆへ、暫して帰り候。此帰り道にて足いたみ、山口え寄、中楼にて暫納涼、咄して、日暮、帰り候。此日、木津にて一宿致し候。此七ツ時、父さま中之島より帰られ候て、同一宿致され候。

(八月) 二日

早朝より父さまと同道にて帰り、梶木町え寄、暫して帰り候処、京師前田、外二宮川富右衛門此人佐々木信濃守夫土兩人参られ候て、色々名画持参致され候。此時、薄茶出す。暫して兩人外え行れ、昼前、参られ候て昼飯上ル。夫より此頃京師の一件珍談有。七ツ前時に帰られ候。此夜、読書二更迄にて臥。

(八月) 三日

朝、後藤え参り、稽古して帰り、短冊十枚認。此夜、父さま木津え帰られ候。二更ニ父さま木津より帰られ候。夜四更迄読書、作図する。

(八月) 四日

朝、後藤え参り、稽古して帰り、襖草稿認、障子腰四季花類認上ル。此日、秋炎きひしくゆへ納涼する。此時、細矢宗祝子来、一更迄久々の咄し有。四更迄読書する。

(八月) 五日

朝、後藤え参り、稽古して帰り、短冊認。此日八ツ時頃、大雷鳴、七ツ時迄。此日、梶木町十七吉子の六日さりにて、父さま行れ、一更ニ帰られ候。此夕、四更迄手習する。

(八月) 六日 力

朝、後藤え参り、稽古して帰り、短冊認ル。此日、加島屋方の襖、山西より持参する。此夕方、黒井堂参り、薄茶出す。又木村氏参、暫して帰り候。夜四更迄読書する。此日、京

師宮原え便する。

(八月) 七日

朝、後藤え参り、稽古して帰り、短冊認ル。此夕、父さま木津え帰られ候留主中、備又より道吉事呼に参り、早速参り候处、備前の客 (空白) ひとく悦はれ、真に珍らしき事と申て、夫より川北楼え参るはつに候へとも、留主なくゆへ相断候。夜五更迄。此日、堺中新より画頼みに参る。

\*はつ (筈)

(八月) 八日

朝、後藤え参り、稽古して帰り、此時、後藤にて、西山芳園に逢、暫咄し有て、私、先帰り候。短冊認ル。此日、備前客、私の画見たく申され候て、幸短冊見せる。ひとく感心致され候。此七ツ時に、父さま木津より帰られ候。此夕、風邪にて早寐する。

(八月) 九日

朝、後藤え参り、稽古して、辻さまえ寄、をしへして帰り候。此時、上田さまより庄内名産老丈の干蛸持参致され、真に見事也。此日、加島屋襖にかゝる。此夜、三更二臥。

\*をしへ (教へ)

(八月) 十日

朝、後藤え参り、稽古して帰り、加島屋襖認ル。夜一更二臥て二更二起、画草稿認、三更二臥。此夜、雨中雷鳴。

(八月) 十一日

朝、後藤え参り、稽古して、辻さまえ寄、をしへして帰り、加州国元より辻宗さまえ頼に参り候袋棚四季山水認。此夕、父さま梶木町より呼に参り、行れ候留主中、元之助事、手足しひれ大さハき致し候。此時、森若さま見舞れ候。早速病気よろしく候。

\*をしへ (教へ) \*大さハき (大騒ぎ)

(八月) 十二日

朝、後藤え参り、稽古して帰り、終日認物。襖認上ル。此日八ツ時より父さま木津え帰られ候。

(八月) 十三日

朝より元之助連て、木津え帰り候。此日、木津七夕にて終日大いそかしく、夕、おとりして、半時に相済。此夜、一宿致し候て、(八月十四日へ続く)

\*いそかしく(忙しく) \*おとり(躍り) \*半時(飯時)

(八月) 十四日

朝より生玉真藏院え応挙の襖見に参り、表波に雁大襖、裏雪中山水、真に見事也。昼時に帰り、昼時に木津え帰り、夕方に中之島え、父さま、元之助、私、十助、四人連にて帰り、此夜、待宵の月清光にて、一更迄月見する。

(八月) 十五日

朝より勝間長源寺一間半天井の竜認、終日致し、此夜、曇天にて無月、二更より清光也。

(八月) 十六日 カ

朝、後藤え参り、稽古して帰り、辻さまえ寄、をしへして帰り、竜眼入て、絹地三尺巾横物、二扁書認。七ツ時より元章連て木津迄帰る。木津にて一宿。

\*をしへ(教へ)

(八月) 十七日

木津にて終日遊ひ候。此日、勝間長源寺え参るはつの処、父さま雨中にて得参られず、又々一宿。

\*はつ(筈)

(八月) 十八日

此日八ツ時に父さま木津え帰られ候て、父さま、元之助、私、三人連にて長源寺参り、父さまハ暫して木津え帰られ候。

(八月) 十九日

此日朝より三間四枚襖表老松鶴認にかゝる。終日認候。

(八月) 廿日

此日、老松鶴中彩色、大てい認上。七ツ時少シ前より、あまり風ひとくゆへ、沖え波見に参る。波の勢、真に面白き事也。日暮後に帰る。

(八月) 廿一日

朝、表老松に鶴認上ル。夫より裏波濤雁、此日、墨書認ル。

(八月) 廿二日

此日朝、半切物、横物、書いろく認、襖波も認上ル。此日、父さま参られ候て、夕方より木津迄帰る。木津にて一宿。此夜七ツ時、天満寺町出火。

(八月) 廿三日

此朝、父さま中之島え帰られ候。私事ハまけひよくゆへ、又々木津にて滞留。

(八月) 廿四日

此日、木津にて滞留。此夕、父さま木津え帰られ候て、唯専寺にて一宿遊し候。

(八月) 廿五日

此朝、父さまと私両筆にて板かんはん認、昼後、帰り懸、綿源え寄、暫して帰り、七ツ時前に、中之島え帰る。此時、辻さまえ寄、早速帰る。夜二更迄手習する。

(八月) 廿六日

朝、後藤え参り、稽古して帰り、書清書して、京宮原先生え出す。昼後、井上さまえ参り候。此間、私留主中度々呼に参られ候ゆへ、此日、参り候。画の認物の相談有て、七ツ時に帰り候。夜三更迄。

(八月) 廿七日

朝、後藤え参り、稽古して、帰り懸、辻さまえ寄、をしへして帰り、参州吉田の展観の兼画認ル。此夕、唐津山田さまえ参り、画の稽古をしへて、此時、上田さまより呼に参り、半時迄、山田さまに居て、夫より上田さまえ参り候処、竹枝太夫浄瑠璃有て、伊勢相語、真におもしろき事也。此時、父さまも居られ候て、私、先帰り、父さま御酒呼れられ候。一更二帰られ候。此夜三更迄、画の草稿認ル。山田さま、上田さま行ハ廿六日也。此日昼後、元之助事、天王寺え参り、木津にて一宿。木津御千度にて台額出る。

\*をしへ(教へ) \*をしへ(教へ) \*半時(飯時) \*浄瑠璃(浄瑠璃)

(八月) 廿八日

朝、後藤え参り、帰り、元之助事、呼に参り、木津御千度台額出て有故、呼に参り候へとも、急ぎ認物にて得帰り申さす。又々元之助、早々木津え帰り候。夫より展観物認おり候処、昼時、又元之助帰り、母さま急病差起り、太鼓の響にて目舞、目も見へぬ様に相成、ものも言へすよう申来り、真に驚々、父さま早々木津え帰られ、私事、子たち早上りさして、独、木津え帰り、元之助事、足いため、暫中之島にてやすみ、又々木津え帰り候。私事ハけふハ親覽さまの御日にて、もはや母さまのおいとまと存て、いきの有間にとそんして急にて帰り候へは、母さま唯専寺にて寄付まで立て来られ、真にひつくりして、うれしく存候也。真に急病ゆへ急に止候也。此日七ツ時前に、木津宗匠、願泉寺え仏参致され、又迹見さまえ寄られ候て、暫御咄し有て、私事、宗匠と同道にて梶木町迄帰り候。此日、木津村台額不残出し、真に神事に如也。此夜、梶木町にて一宿致し候。

\*目舞(眩暈) \*親覽さま(親鸞さま) \*おいとま(お暇) \*そんし(存じ)

(八月) 廿九日 カ

朝、後藤え参り、稽古して帰り、草稿認ル。此日七ツ時、宮原先生より便有。此夜、お千枝さま**お留り**下され候。夜二更迄読書、手習。

\*お留り(お泊)

(八月) 晦日

朝、父さま木津より帰られ候。私事、展観の書認ル。昼飯して、父さま天王寺え展観物持参致され候。此日、墨沢山余り、半切六枚認ル。夫より堺の肖像にかゝる。此夕日暮、暫して大雨降、一更後より大雷。私独にて、もはや頭の上え落ると**かくこ**致し候処、御影さまにて、三更頃より寐入、明る迄一眠中也。

\*かくこ(覚悟)

(閏八月)

閏八月朔日

朝、勝間長源寺主参られ候処、父さま木津より帰られ候。暫画の相談有て、昼時帰られ候。父さまも昼後、木津え帰られ候。此日、肖像認上ル。夜三更迄読書、手習。

(閏八月) 二日

朝、後藤え参り、稽古して帰り、絹地尺二巾堅物中将姫、此日に認上ル。此日、父さま木津え帰られ候て、夜二更ニ、中之島え帰られ候。木津村頓ころの御千度にて、前八月廿五日より、夜も**おとり**、**ニわか**、老人より子供に到迄惣出にて、扱々賑々しく事、木津村に稀也。

\*おとり(躍り) \*ニわか(俄)

(閏八月) 三日

朝、後藤え参り、稽古して帰り候処、三之助子帰られ候。父さまは田尻用向にて多田光辺寺**ソウ式**に参られ候。八ツ時より、三之助、私、元之助、三人連にて天王寺え参詣致し、楚山先生え寄、暫画談事致し、夫より七ツ時に木津え帰り、此夜、木津にて一宿致し候。

\*ソウ式(葬式)

(閏八月) 四日

七ツ時より三之助、堺え帰り、私事、夜明てより中之島え帰り、元之助事、昼前に帰り候。

四ツ時より後藤え参り、稽古して帰り、此日、認物不為也。夜二更迄読書。

(閏八月) 五日

朝、後藤え参り、稽古して帰り、草稿認。八ツ時より井上さまえ参り、薄茶戴、認物の相談する。後、唐名画拝見する。七ツ時に帰り、此時、辻さまえ寄、夕飯戴、暫咄して、お後室さまと同道にて帰り、お後室さま、星さまえ行れ候。此日、終日大雨也。夜、雷鳴。二更二臥。

(閏八月) 六日

後藤え参り、稽古して、木津さまより呼に参り、木津さまえ寄、田淵さまの認物相談いたし、帰り、草稿認ル。此夜二更に父さま多田より帰られ候。

(閏八月) 七日 カ

朝より、上田さまより誘れ候て、文楽へ行。前、朝貌つき通し、後、大塔宮、切、戻り駕。真に面白き事也。半時に帰り、早々草臥候ゆへ臥。三更頃より仕切に腹いたみ、大下り、終夜也。夜の明方に一眠する。

\*半時(飯時)

(閏八月) 八日

後藤え参り、稽古して帰り、ねから下り不止、腹いたみ止、終日遊ぶ。此夜、父さま木津え帰られ候へとも、母さま私の病氣あんしられ、早々又中之島え父さま帰られ候。

\*ねから(根から) \*あんし(案じ)

(閏八月) 九日

朝、後藤え参り、稽古して、森さまえ参り、三折さまに見てもらい、薬到来して帰り、半切二枚認ル。

\*三折さま(三節さま)

(閏八月) 十日

朝、後藤え参り、稽古して帰り候処、姉小路さまより文参り、真浄院さま御黄泉遊し十二日御そうく父代参にて早々上京の由、申参り、又堺より文参り候。父さま、早々木津え帰られ候。終日草稿認ル。半時頃に、木津より父さま帰られ候。夜四更迄手習、読書する。

\*そうく(葬送) \*半時(飯時)

(閏八月) 十一日

早朝、舟にて父さま上京致され候。朝、後藤え参り、稽古して帰り、尺三絹玉堂富貴認上

ル。夫より写物。夜三更迄読書、手習。

(閏八月) 十二日

後藤え参り、稽古して、木津さまえ参り、画の認物頼れ候。帰り、草稿認。八ツ時、井上さまえ参り、おきくさま留主ゆへ、早々帰り候。夜一更後に臥。

(閏八月) 十三日 カ

昼前、後藤え参り、稽古して帰り、早朝より獅子の草稿認。此時、元章、先生え行、終日写物。夜四更迄水書ナス。此夜、元章、宿木津。

(閏八月) 十四日

朝、後藤え行、稽古致、及帰、木津え寄処、田淵氏来り、面相談致。此時、茶稽古。烏帽子棚一手前致、帰り候。此時、元章、木津より帰。此八ツ時より、木津御坊、於堺、[安察](#)知殿法談参詣致、又暮早々参詣ナス。真に嬉しき事也。一宿。

\*安察知 (按察使)

(閏八月) 十五日

早朝、父さま、勝蔵子同道にて京師より帰。此朝、御坊え行、法亭君ト色々珍談有、又扇子、書画認ル。昼飯呼れ、八ツ時、御法坐参詣致、又夕御坐参詣致。真に南無阿弥陀仏の御恩の程、有難く候事也。此夕、木津御千度にて、村中躍にて**大さハき**也。夜三更二臥。  
\*大さハき (大騒ぎ)

(閏八月) 十六日

早朝、私、中之島え帰り、此後、元章帰り、又父さま帰られ候。此昼時、勝蔵子帰られ候。此夜、船にて京師え帰られ候。父さま、此日、行木津、不帰。此日、大屏風獅子書認。此夜、元章と同道にて尊光寺え御法頂聞に参詣スル。

\*御法頂 (御法聴)

(閏八月) 十七日

朝、行後藤、稽古ナス。獅子草稿認。此夜、尊光寺参詣する。

(閏八月) 十八日 カ

朝より誘上田氏ニ、共**二五靈**首振え行。上毛谷村六助、**中三十三軒堂**、切、姫山姥。此日、一興、**帰半時**。元章、居梶木津、二更二帰。

\*五靈 (御霊)

\*三十三軒堂 (三十三間堂)

\*半時 (飯時)

(閏八月) 十九日

昼後より私独、天王寺楚山先生へ行、暫珍談有。木津へ行、唯専寺、八ツ時御坐逢、夕御坐逢。於木津、一宿。

(閏八月) 廿日

朝、雨中、父さまと共に帰り、後藤へ行、稽古ヲナス。コテ々(々)と終日暮ス。此夜、豊島釜懸呼れ候。

(閏八月) 廿一日

朝、後藤へ行、稽古して帰り、屏風にかゝる。七ツ時、認上ル。夜、到三更迄、読書。終日雨中。

(閏八月) 廿二日

朝、後藤へ行、稽古して帰り、横物絹地山水に懸ル。八ツ時、認上ル。又半切物、小物、九月物十枚斗認ル。夜、手習、三更迄。

(閏八月) 廿三日

朝よりうつほ光円寺へ参り、大和僧此人御親造の親君、河内僧主寺の親、二人肖像頼れ、顔写しに父さまと参る。両僧顔写。其中、三疊新席にて釜懸、飲薄茶、済、酒宴。此会、珍談有。昼飯戴、八ツ後時、帰家。屏風落歎致、夜詩作。此夕、父さま木津へ帰り、夜五更迄。

\*うつほ(靱) \*御親造(御新造) \*主寺(住持) \*落歎(落款)

(閏八月) 廿四日

朝、後藤へ参、致稽古、帰懸、寄辻さま、暫居、又帰、肖像下絵認。七ツ時、父さま木津へ帰られ候。夜、読書、三更。此夜、父さま帰られ候。

(閏八月) 廿五日 カ

早朝より僧来。此僧、枕石山開帳の義二付、京師より来られ候。終日雨中。朝より三幅対二組認、其外彩色物する。夜、手習、二更迄。彼僧、一宿致され候。此僧、東光寺也。

\*義(儀)

(閏八月) 廿六日

朝、後藤へ参、稽古して帰り、絹地小物人物美人四人認にかゝる。右の僧も昼時前より同道にて、父さま木津へ帰られ候。此暮七ツ時、客と父さま木津より帰られ候。夜二更二臥。

(閏八月) 廿七日

此朝、信州僧帰られ候。美人認ル。夜四更迄読書。此日、辻御後室さま、屏風御覧ニ参られ候て、暫居られ候。此日、京師宮原先生より扇子画頼に來り候。此日、父さま木津え帰られ候。

(閏八月) 廿八日

朝、後藤参、致学、帰家、金銀蒔絵物認。日暮、父さまと共に、堀川御堂え参詣致、堺常通寺御法談頂聞致し、一更、帰家。二更二臥。

\*頂聞(聴聞)

(閏八月) 廿九日

朝、後藤え参、致学、帰家、蒔絵物認、又美人認上ル。此日昼時、岩田亭山子來、絹地二枚四季花鳥頼れ、良暫面談して帰られ候。此時、又長源寺僧杉戸持参致され、又暫して帰られ候。此日八ツ後より父さま堀川御堂え参詣致され、夫より卯野え行れ候。此夕方、高城來り候。夜五更迄読書、学書。父さま一更二帰られ候。

(九月)

九月朔日

朝より蒔絵物認、又草稿認。此昼時、津戸石田参り、暫して、帰られ候。此日八ツ時より、父さまと共に、致堀川御堂え参詣、七ツ後二帰り候。此夜夕方より、私、眼病ニ成。此夜よなへなし。

\*津戸石田(津堂石田)

(九月) 二日 カ

芝山棚菊の置上認、終日。此日昼前より父さま木津え帰られ候。昼時、木津十助参り候。此夜、父さま木津より帰られ候。此日、眼追々あしく候へとも、読書する。

(九月) 三日

此日も終日、菊の置上認ル。此昼時より父さま堺え行れ候。此朝、宮原先生より頼れ候扇子認、京師出す。此日、菊の置上認上ル。此夜、豊島さま釜日にて呼に参られ、薄茶呼れ、一更迄咄有。客、竹内さまと同子息、鳥羽屋番頭。色々おもしろき事也。帰り、臥。此日、眼病盛也。

(九月) 四日

此日、絹地極彩色花籠認にかゝる。此夜二更二父さま堺より帰られ候。眼病同様也。

(九月) 五日

此日、花籠、終日認ル。此夜、野田松太郎さま、田淵麟治郎さま、元之助留主番にて、父さまと共に堀川御堂え参詣いたし、一更二帰り候。此日、眼少々よき方也。

(九月) 六日

此日、花籠認。此朝、常通寺**安擦使様**参られ候て、昼前迄御咄し有て帰られ候。又此八ツ時後、京師浅井隼人参られ候。当時京師の説色々咄し有て、七ツ時前に帰られ候。又此夕方より父さまと共に堀川御堂え参詣致し候処、御法談釈迦八**ソウキ**、是**頂聞**して、御慈悲の尊さ、此夜身にしみわたり、是程の深き御慈悲にてなけれハ私ハたすかる**はつ**ハなき事と、南無阿弥陀仏の難有さ、真に身にも**りい**つる我涙かな。一更二帰り、夫より二更二臥。

\*安擦使様 (按察使様) \*ソウキ (相記) \*頂聞 (聴聞) \*はつ (笈) \*もりい  
つる (もれいつる)

(九月) 七日

朝昼二到、扇子一本、絹地花籠落製。昼後、井上様え花籠持参致し、早速帰り懸、木津氏え寄。若林政吉様居られ候。是も早速帰り候。夫より父さま木津氏え行れ、又南木津え帰られ候。

(九月) 八日 カ

此日、終日掛払にてゴテくして、夕方より上京拵して、父さまと共に辻さまえ行、暫して又梶木町え行、暫して乗船致し、船中月清光にて、伏見え五更二着。

(九月) 九日

此日、伏見神祭にて、人やとい、京師寺町三宅え屏風持参。昼飯して、早々姉小路御殿え行候処、早々松茸狩、殿様、伊織さま、光さま、父さま、姉さま、私、六人連にて岩倉え行、岩倉山にて夕方迄遊ぶ。帰り、霊徳庵にて御酒戴、色々風流、面白き事也。皆々満腹にて、腹すかし(三)、石山様御別荘不二坊え遊ひに参り候処、石山様親殿様、御子さま二方、小侍、八十斗の父と御酒御上り遊し、台所のせまき所にて御酒戴。真に風流**極至**也。夫より皆々観音様え参詣して、霊徳庵え帰り候処、二更也。一眠して三更二起、岩倉祭、穴夕、キ祭と申て、真におかしき祭也。まはり五だかく程に長五軒斗の薪、神前に二ツ置、火を**焼**。真に火事の如し。

\*極至 (至極) \*穴 (シリ) \*焼 (焚)

(九月) 十日

此火焼終、夜明也。夫より不二坊え参り、薄茶戴。不二坊の景色、桜の紅葉、真に如錦色、真景写し、夫より又山へ行、松茸狩。五ツ時、靈徳庵え帰り、朝飯して、又山へ行、松茸沢山狩、夫より殿様、伊織さま、先帰られ候。跡より四人帰り、此道雨中、彼是七ツ時に帰り候。此夜、殿様御居間にて御酒戴、色々珍談有。二更後二臥。

(九月) 十一日

此朝、御役所襖一組認ル。昼飯して宮原先生え参り、色々咄し有処、当時京師風流人も少なく相成、何やら**せけん**さわかくゆへ、先生え浪花え住居遊し度様仰せられ(候)也。一酒戴、夫より六条前田へ行、枕石山の**義**に付、願法寺に逢、談事有。夕飯呼れ、此夜、前田嫁荷物参り、何やら**いそかし**く致され候ゆへ、暫して帰り、寺町三宅にて一宿する。  
\*せけん(世間) \*義(儀) \*いそかし(忙しく)

(九月) 十二日

朝、高倉勝蔵子え参り候処、勝蔵子と共に玉緒と師へ行。此人手画致され、色々席画。私も席画する。外二客二人来り、色々風流面白き事也。父さま、先、姉小路様え上られ候。私事、昼飯して、勝蔵子と共に、御殿え上り、早速大徳寺え拝見に参る。方丈、真珠庵、大仙院、皆々御庭当者、襖名画拝見致し候。此時、殿様御ならせられ候**はつ**の処、少々御用あらせられ御やめに相成候也。凶書さま、父さま、勝蔵子、姉さま、私、供、六人連也。  
**半時**に帰り候。此道にて勝蔵子帰られ候。又殿様御居間にて御酒戴、色々おもしろき事也。二更後二臥。

\*はつ(筈) \*半時(飯時)

(九月) 十三日

此日、御殿忌明にて、御祝遊し、色々**いそかし**き事。昼飯して、帰坂致候つもりにて、御殿御いとま申て帰り、寺町三宅え寄、又六条前田え寄、御本山え参詣致し候処、龜山院さま御法事にて、御経二逢、真にうれしき事也。夫より帰り、高瀬に乗候**はつ**の処、時刻延候て、船なくして、又々寺町三宅にて一宿。此夜、父さま教信寺え行れ、私事、勝蔵子、富蔵子と共に道場え咄し聞に行、二更二帰り、兄弟打寄、色々咄し有処、教信寺来り、彼是四更二帰られ候て、臥。

\*いそかし(忙しき) \*御いとま(御暇) \*乗候はつ(乗候筈)

(九月) 十四日

朝より父さまと共に二人連にて嵐山へ行候処、山の景色真に如錦、所々樹々紅葉して、中々筆にも及はぬ事ながら、真景を写し、夫より明知院へ行、御庭拝見して、又天竜寺御庭も拝見致し候。夫より嵯峨の御釈迦様え参詣致し、此門前にて昼飯致し、夫より帰り懸、秦の聖徳御太子様え参詣致し、夫より半町斗にて、茶店にて休足致し候処、一人僧居られ、

色々咄し有処、此僧、秦の家筋末孫にて、秦のカハカツ広隆を号して広隆寺名附、此僧広隆寺の僧也。色々御太子様の咄にて、時刻おそなをり、夫より寺町え七ツ時前に帰り、高瀬に乗。此船足付候て、真にひ間取、伏見え二更二着。又浪花やにて仕たくして、三更二漸泛船。此夜、船中月清光にて、月と共に浪花え帰り候也。着船、五更也。宅え帰、一眠する。

\*カハカツ(河勝) \*おそなをり(遅なはり) \*ひ間(暇)

(九月) 十五日

此日、辻さま、又木津さまえ行、色々京師の面白き咄し致し、コテくして終日暮す。父さま、辻さまにて昼飯呼れれ、木津え帰られ候て、一宿遊し候。昼時、元之助事、木津より帰り候。

\*呼れ(れ(衍))

(九月) 十六日

朝、後藤え参り、稽古して帰り、昼後より張交物認ル。此夕、父さま木津より帰られ候也。此夜、二更二臥。

(九月) 十七日 カ

朝、父さま辻さまえ行れ、夫より木津え帰られ候。私事、子たち半日にて辻さま行、昼飯呼れ、木津え帰り、御坊開帳御紐解にて、夕方迄三度宝物拝見致、一度よりハ二度、々々よりハ三度、拝見毎に御恩身にしみ、自流泣如雨。夜も法談頂聞する。二更二臥。

\*頂聞(聴聞)

(九月) 十八日

早朝、元章と共、中之島え帰り懸、辻さまえ寄、朝飯戴、帰り、後藤え行、稽古して帰り、張交物認上ル。絹地御絵殿認にかゝる。夜一更迄読書。此日、辻作助さま御坊え行れ候。

(九月) 十九日

朝、後藤え行、稽古して帰り、御絵殿にかゝる。此日、佐々木来。此人色々詠歌認められ、私も席画する。夫より帰られ候。夜、手習、読書。至四更、臥。

(九月) 廿日

朝、後藤え行、稽古して帰り、御絵殿落製する。夫より半切一枚認め。七ツ時頃より、私、木津え帰り候。父さまニ少々用事御坐候ゆへ、御坊え参り、夕飯一寸呼れ、父さまと同道にて中之島え帰り候。此道、木津さまえ寄、又辻さまえ寄、良暫して帰り候処、一更。又此時、御愛さま来られ、二更二帰られ候。読書、至四更、臥。

(九月) 廿一日

朝、父さま木津え帰られ候。私、後藤え参、致稽古、帰り候処、井上さまより呼来、昼後、行、画の稽古して日暮帰宅。夜、読書、発句致。上田さまより題来、夜通。

(九月) 廿二日

朝六ツ時、三節子来、昼時迄居、昼時より木津御坊え開帳参詣に行。私、半切認ル。此八ツ時、津戸信齋子来、ダイガ塚吉井、おのふ子不実ゆへ此度離縁度候間、浪花にて好きいし候小生に相頼と申て参られ候。暫咄し有て帰られ候。夜、至一更、臥。

\*津戸信齋子(津堂信齋子) \*ダイガ塚(大ヶ塚) \*いし(医師)

(九月) 廿三日

朝、後藤え行、致稽古、帰り候処、京師姉小路様より店走にて文給り、此度姉小路様関東え御勅使、上様より仰出され、急々御下りのよしにて、親父さま御供のよし仰付聞られ、何分急々京上の致す様申来、私、早々木津え参、父さまえ知らせに参、又開帳拝見する。此時、松助、玉路、玉吉、はる、いま、皆々開帳参り居り、供に帰り候。此夜、船にて父さま御上京遊し候。夜、読書又発句する。至五更ニ。

\*供に(共に)

(九月) 廿四日

朝、木津さまえ行、又後藤え行、稽古して、辻さまえ寄、暫して帰り、半切物認ル。夜、読書、到四更ニ。此、観順子来、暫して帰り候。

\*此(ママ)

(九月) 廿五日

此日、豊島さまえ行、暫咄し致し候処、堺毛綿三来、七ツ時後迄居られ候。又日暮迄豊島さまえ行、薄茶呼れ候。此夕、皆森さまより呼に参り、薄茶呼れ、一更前迄夜咄し。此朝、京師姉小路様より文参り、京栗田口に首三ツかゝり事也。夜三更後迄作図する。

(九月) 廿六日

早朝、父さま京師より帰られ候て、多用いそかしく致され、又木津え帰られ候。此朝、後藤え行、稽古して帰り、作図する。夜五更迄。

\*いそかしく(忙しく)

(九月) 廿七日

此日、五霊神事、休日。此日、井上さまより呼に参り、昼後より参り、此時、帯到来する。

日暮迄遊ぶ。帰り、一更二臥。

\*五霊(御霊)

(九月) 廿八日

朝四ツ時、米平さま本家より使参り、楚山先生の御文にて、此度米平さまいとさま嫁入二付、衣裳もやふ下絵認に来てくれやう申参り、此使と同道にて申事二候へとも、昼飯も得煎す、是より昼飯煮て、早々辻さまえ行、米屋さまの所書相尋候と存て参り候処、虎吉とんから米屋さま迄送りてもらい候事也。此日、日暮迄下絵認ル。此日も楚山先生同席にて認物する。認岩藤也。

\*もやふ(模様) \*得煎す(得煮す) \*虎吉とん(虎吉どん)

(九月) 廿九日

朝より子たちをしへして、昼前より殿村さまえ行、認物する、日暮迄。楚山先生居られ候。此夜、辻さまえ行、一更迄御酒戴。夜三更二臥。

\*をしへ(教へ)

(九月) 晦日 カ

朝より殿村さまえ行、認物、日暮迄。此日、先生不参候也。

(十月)

十月朔日

朝より殿村さまえ行、認物、日暮迄。此日、先生不参候也。夜三更迄認物。

(十月) 二日

朝より殿村さまえ行、認物、萩、昼貌。日暮に帰り候也。夜三更迄認物。

(十月) 三日

朝より殿村さまえ行、萩、昼貌認ル。日暮に帰り候処、此日、京師より店走りにて文参り、三之助事、三日夜船にて上京致せとの事ゆへ、此夜、辻さまにて出立致し、辻さま色々御世話さまの御事也。三之助さま、此夜、船上京致され候。此夜、四更迄認物する。

(十月) 四日

昼後より殿村さまえ行、此日、ま弓認ル。七ツ時に帰り、辻さまえ行、辻さまにて一宿する。

\*ま弓(檀)

(十月) 五日

此日八ツ時より井上さまえ行、色々画認ル。夕飯戴て帰り、辻さまにて一宿する。此日、京師え包物出す。

(十月) 六日 カ

朝、中新え掛物出す。此日昼後、殿村さまえ行、認物する、日暮迄。私事、もはや留主番御坐なくゆへ、殿村さまえ行事難成ゆへ、殿村さま御断申上、宅にて認候様に相成候事也。此夕、木津え帰り候と存て、辻さまえ参り候処、私独にてあんし候由、御後室さま仰られ、岩助殿連て木津え帰り、岩助殿辻さまえ引返し候也。此夜、唯専寺え行、三更頃迄遊ぶ。帰り、一宿する。早朝より帰り、(翌日へ続く)

\*あんし(案じ)

(十月) 七日

早朝、木津より帰り候処、此日、井上さま北野行にて呼に参り、昼時より北野え行、菊類写生する。昼後、別荘にて戴、又薄茶、又隠にて戴、良久遊び、日暮より帰り候処、楚瑞子来、暫画の咄し有て帰られ候。夫より辻さまえ行、三更二臥。

(十月) 八日

此日昼時、元之助来、堺春行え三之助御暇相願候処、いまた御暇に相ならぬゆへ、今一度願書出候由申来、夫二付、私、木津え帰り候。木津にて一宿。此日、京父さまより文来。鯛味噌、桜鯛の御用也。

(十月) 九日

朝、木津より帰り、此日、鏡戸にかゝる。夕方より辻さまえ行、三更二臥。此夜より腹いたみ、夜通也。

(十月) 十日

此日、腹いたみにて終日遊ぶ。此夕、光円寺さま御こしの由ゆへ、内え居てくれ様申来候ゆへ、久しく相成候へとも、ねから御こしもなき。腹しきりにいたみ、辻さまえ行かね候へとも、しやうもなくゆへ、一更前に参り候処、辻さま、尚五郎さま下男不寧の義二付候て、御取越の夜也。二更二臥候へとも、腹いたみ弥ひとく下し候て、終夜也。此日、河内森野氏来ル。

\*ね(根) \*義(儀)

(十月) 十一日

此日、子たち半日にして、私、辻さまにて養生。亀山さまにみてもらい、色々**大きハキ**也。終日終夜、**子たつ**住居ニ候也。此日、京師三之助より文来。三之助事、此度御供、殿様格別の思召にて用人に相成、三之助を典膳と名を戴、父さま用附に候也。

\*大きハキ(大騒ぎ) \*子たつ(炬燵)

(十月) 十二日 カ

此日、鏡戸、終日認ル。此日、病氣全快いたし候。此夕、光円寺さま参られ候て、暫御咄し有て帰られ候。此時、楚瑞子来、早々帰られ候。此内、夜ナへして、一更前、辻さまへ行、手本認、三更二臥。

(十月) 十三日

此日、終日鏡戸認ル。此昼時、太田氏来、右霜村画を頼に参り候へとも、**ね**から急き物ゆへ認かね候間、相断申候へは、又太田氏頼に來候事也。昼後八ツ時、帰られ候。此夜、鏡戸夜通しする。又辻さま御**あんし**遊し、岩助殿**留り**に來られ候。**此又**、京、堺、摂州、木津行文認。

\*ね(根) \*あんし(案じ) \*留り(泊り) \*此又(此夕)

(十月) 十四日

此日、子供衆休日。朝、後藤先生え家移祝金五拾疋持参致、又田淵様より金百五十疋認料、後藤様え取次いたし、暫咄致し、帰り候。辻さまにて昼飯、**おせんさい**呼れ、夫より辻作助さま**義**ニ付、木津御坊え帰り、暫して夕景、辻さま岩助との迎ひに來、同道して帰り候。此時、道にて、南辰巳屋辺出火。帰り、火事にて**大きハキ**。三更二臥。

\*おせんさい(お善哉) \*義(儀) \*大きハキ(大騒ぎ)

(十月) 十五日

朝より下絵**まゆみ**認。昼後、井上さまえ呼に來、参り候処、北野行にて、私帰り、又**まゆみ**認上ル。辻さまえ帰り、三更二臥。

\*まゆみ(檀) \*まゆみ(檀)

(十月) 十六日

子たちを**しへ**して、殿村さまえ行、昼飯呼れ候て帰り、昼後、井上さまえ行、色々手本認。此時、島の着物一枚戴。日暮、帰り、此帰り懸、梶木町え寄、茶の稽古して帰り、辻さまにてうつし物、三更迄。

\*をしへ(教へ)

(十月) 十七日

朝、辻さまより帰り、子たち教して、認物する。夕方より辻さま行、三更二臥。

(十月) 十八日

朝、辻さまより帰り、此時、殿村さまえ行、認物相談する。帰り候処、井上さまより呼に  
来、八ツ時より参り、色々手本認ル。此時、尼ギリヤウさま来り、ふと此人の像像てくれと  
申され、そく席写、おもしろき事也。此時、夕飯呼れ候て、辻さまえ帰り、三更二臥。

\*像二て(ママ)くれ \*そく席(即席)

(十月) 十九日 カ

朝、辻さまより帰り、まゆみふり口認、又桜草下絵焼墨あて、八ツ上りして、井上さまえ  
行、楼の襖赤辟山水認にかゝる。夕、辻さまえ行、三更二臥。此夕、梶木町え行候処、宗  
匠御客有て、二畳二居られ、森さま六畳にて御酒吸れ、私も呼れ候。暫して帰り候。此日、  
京姉さまより文給り候。

\*まゆみ(檀) \*赤辟山水(赤壁山水) \*吸れ(汲れ)

(十月) 廿日

朝、辻さまより帰り、此日、昼休にて、昼飯辻さまにて呼れ、光田寺さまえ行、暫画認物  
相談いたし、順慶町堀井え行、又井上さまえ行、襖認、夕飯して、辻さまえ帰り、三更二  
臥。

(十月) 廿一日

朝、辻さまより帰り、桜草下絵認にかゝる。終日して、辻さまえ行、三更二臥。

(十月) 廿二日

朝、辻さまより帰り、尺三絹肖像認にかゝる。八ツ時より井上さまえ行、日暮迄。辻さま  
え帰り、三更二臥。

(十月) 廿三日

朝、辻さまより帰り、子達をしへして、井上さまえ行、終日襖認、豊島さま迄帰り、明日  
細矢さまえ御茶之湯招かれ候て、私客に相成候ゆへ、色々茶之咄致し候処、豊島さま御帰  
りにて、又咄しして、一更二辻さまえ帰り、三更二臥。

\*をしへ(教へ)

(十月) 廿四日 カ

朝、辻さまより帰り、子達をしへして、辻さまにて身こしらへして、梶木町え行、お連さ  
ま、御千枝さま、私、細矢え行、正午茶之湯。私上客、詰お連さま。

床懸物、乾不画（チウコウ 宗匠 鷺峰山頭松月先拙書）、釜、浄玄作（三合尻はり）、香合（染付）、水指（備前）、茶碗（黒楽 銘恵ヒス）、茶入（アコタ書附）、薄茶碗（仁清）、茶杓（銘嚶々）、袋（フツウ）、花入（丹作 尺八 銘書附有）、花桂 水仙、茶綾ノ森詰  
会席、向（赤楽 菊皿 太左衛門作 若狭もとき小鯛）、汁（百合根 カウ竹 からし）、煮物（アンヘかふら 金子 玉子 ゆう）、吸物（チャウロキ 露ノとう）、八寸（海老 金南）、かうの物（ナスヒ）。

後、薄茶手前、千枝さま遊し候。誠におもしろき事也。七ツ時前に木津え帰り、又辻さまえ帰り、夕飯して木津え帰り、此時、岩助殿と同道也。岩助殿先帰られ、私一宿する。此日、父さまより文参り、浜松宿にて十八日出にて、無事の使ある。

\*をしへ（教へ） \*こしらへ（拵へ）

（十月） 廿五日

朝、元之助と同道にて、中之島え帰り候。八ツ後より細矢さまえ御札に参り、暫して辻さまえ帰り、読書、写物。三更二臥。

（十月） 廿六日

朝、辻さまより帰り候。此朝、楚瑞子参られ候。昼飯して井上さまえ行、赤辟之襖書認ル。八ツ時に帰り、肖像認ル。此日、雨中にて早しまいして、辻さまえ帰り、読書、手本認。三更二臥。此日、懸物講、辻さま御店鬮引してもらい候へは、皆森さま入講不承知にて、此時、断に花蹊さんにハ大講しやと申て居られ候よし也。ふしよ〜に入加致され候。

\*赤辟（赤壁） \*早しまい（早仕舞） \*ふしよ〜（不承不承）

（十月） 廿七日

朝、辻さまより帰り、肖像認ル。此夕、御後室さま、新三郎さま、お久のさま、私、四人連にて星さまえ参り、御素麦、色々酒宴有。一更二帰り、二更二臥。

\*御素麦（御蕎麦）

（十月） 廿八日

朝、辻さまより帰り、手本認。此日、早仕舞して、辻さまえ帰り、節季払勘定、店にてしてもらい、此夜三更二臥。此日、京姉小路さまえ恐悦の文出。宮原先生え文出。

（十月） 廿九日

朝、辻さまより帰り、肖像認上ル。終日諸払して、辻さまえ帰り、三更二臥。此日、堺中新来。薄茶出す。暫居られ候。

(十一月)

十一月朔日

朝、辻さまより帰り、此日、楚山先生え御礼ニ参り候はつ<sup>つ</sup>の処、甚大風にて、此時、後藤先生え御礼ニ参り、暫して帰り、辻さまにて昼飯戴、帰り、肖像認上ル。此七ツ時、光円寺参られ候て、日暮迄居られ候。夫より辻さまえ行、三更二臥。

\*はつ(筈)

(十一月) 二日 カ

朝、辻さまより帰り候処、指市、川島参り、暫咄し有て帰られ候。此朝、楚瑞子来、殿村謝礼、先生よりことつかり持参致され候。昼後、新兵衛子、菓子携て来。薄茶出す。良暫居、咄し有て帰られ候。夕方、梶木町より呼に来、木津さまえ参り候処、浜作の嫁入荷物、今作え参り、見物に行。細矢貞順さまも同道也。一更前に帰り、三更二臥。

(十一月) 三日

朝、辻さまより帰り、色々ゴテ<sup>ぐ</sup>して、八ツ時より木津え帰り、早々元之助連て楚山先生え御礼ニ行、日暮、暫咄して帰り、木津にて一宿。

(十一月) 四日

朝、木津より辻さまえ帰り、昼飯して宅え帰り、コテ<sup>く</sup>して、楚瑞子方え行、暫咄して帰り、辻さまえ行、写物、読書。二更二臥。此日、宮原先生来られ候也。

(十一月) 五日

朝、辻さまより帰り候処、田淵元之助さま、一軸持参致され、私より後藤さまえ書願くれ様頼まれ候て、私、早々後藤え行、認物頼む。暫して帰り候。肖像認にかゝる。終日して、夕方より辻さまえ行、読書、三更迄。此夕、梶木町より呼に来、参る。早々帰り候。

(十一月) 六日

朝、辻さまより帰り候て、肖像認。此日、落製する。此日、堺新兵衛子来、薄茶出。此日、羊羹、文、京姉さまえ出。此日、堺新兵衛子、商用にて明朝早く堂島え行れ候ニ付、私方え一宿願れ候へとも、とめる事ならず候ゆへ、向備又を頼、一宿致され候。夕、辻さまえ帰り読書。三更二臥。

\*とめる(泊める)

(十一月) 七日

辻さまより帰り、此時、後藤先生より合作の懸物認められ候て、元之助事持帰り、私、又合

作する。此日、大風、午時、出火、安治川辺也。暫して静まる。此夕、京勝蔵子参られ候て、私同道して辻さまえ行、暫咄して辻さまにて夕飯呼れ、木津え帰られ候。此夕、読書。二更二臥。

\*静まる(鎮まる)

(十一月) 八日 カ

辻さまより帰り、此日、子達半日にして、弁当認る。

(十一月) 九日

朝、辻さまより帰り、子達をしへして、梶木町え画の相談に行、暫して帰り、楚瑞子え行、暫して帰り、終日写物する。此日、上田清助さん二階障子はりに来られ候。夕、辻さまえ帰り、三更二臥。此日、後藤え行、写物謝持参する。

\*をしへ(教へ)

(十一月) 十日

朝、辻さまより帰り、手本認ル。

(十一月) 十一日

朝、辻さまより帰り、写物する。此日昼前、京三宅より文参り、其中に江戸父さまよりの文、十月廿九日出にて参り、御無事江戸御着のよし申来り候。此日、私、木津え此よし申帰り候つもりながら、大雨にて止、木津さまえ行候処、宗匠留主、一手前して、辻さまえ帰り候て、二更迄読書する。

(十一月) 十二日

朝、辻さまより帰り懸、梶木町より呼来、参し候処、会席附談事、又父さまよりの文見せ、安心致され候。此日八ツ後時より、父さまよりの文持て木津え帰り候へは、母さま大ゐに、悦れ、安心致され候。唯専寺えも文望候。此日、竹鴉さま花園殿え御縁組致され候て、結納の振舞にて、肝煎一統酒宴也。私、目錄請取認ル。此夜、内にて一宿致し候。

(十一月) 十三日

朝、木津より帰り、此日八ツ時、京姉小路さまより、又父さま江戸より便有。將軍さまより進せられ候御菓子二重参り、方々へ配分する。此日、井上さまより呼に來、八ツ後より参り、夕飯して帰る。三更二臥。

(十一月) 十四日

朝、辻さまより帰り候て、此日、写物する。夕、辻さまえ帰り、三更二臥。

(十一月) 十五日 カ

朝、辻さまより帰り、終日写物する。此日、江戸父さまよりの文、姉小路さまより参り候。夕、辻さまえ帰り、又梶木町え行、暫して帰り、二更二臥。

(十一月) 十六日

朝、辻さまより帰り、此昼前、御坊より認物、徳明子持参致され、認ル。又江戸申参り候短冊十枚認上ル。夜一更前、辻さまえ帰り、二更二臥。

(十一月) 十七日

朝、辻さまより帰り、短冊十一枚認ル。此日、江戸行の文、短冊、淀川鮎、京姉小路さまえ出。夕、尊光寺御法座有。円光寺さまの御法談、

只有願主泛セイハク ふねの事 風帆直到路城前  
此詩の咄し有。一更前に帰り、二更迄読書。

(十一月) 十八日

朝、辻さまより帰り、昼後、後藤先生え寒氣見舞行。昨日星さまより到来の羊羹持参する。暫先生と咄し有て、帰り候。此日、北和田さまよりの御頼全紙梅林山水認、又雪中山水認二かゝる。此日、元之助来。岸畑、田淵、堀、川島、四軒え講金集に遣す。皆留主中。此夜、辻さまえ帰り、**四更二迄**読書、手習。

\*四更二(ママ)迄

(十一月) 十九日

朝、辻さまより帰り、雪中山水認上ル。此夜、辻さまえ帰り、三更迄手習、読書。

(十一月) 廿日

朝、辻さまより帰り、絹地花鳥認にかゝる。此日、梶木町より呼に來、昼後、参り候処、京え留主中見舞の文認る。帰り、終日画。夜、辻さまえ帰り、三更二臥。

(十一月) 廿一日

朝、辻さまより帰り、絹地認ル。終日して、辻さまえ帰り、一更後二臥。

(十一月) 廿二日

朝、辻さまより帰り、子たち昼より休して、木津え帰り、天王寺え寒氣見舞二行、暫咄して居り候処、日暮也。夫より木津え帰り、中之島え帰り候と存候へとも、母さま**安事**られ候ゆへ、又木津にて一宿。

\*安事(案じ)

(十一月) 廿三日

朝、中之島え帰り、此日、絹地秋水花鳥認上ル。辻さまえ帰り候処、此日風気にて早寐する。

\*風(風邪)

(十一月) 廿四日

朝、御後室さま仰られ候にハ、私、夜前、夜通しせき致し候ゆへ、あんしられ候て、夜通しおやすみなく、早朝より起られ候て、早々薬せんして花蹊さまえ上候と仰られ、お菓戴、四ツ時迄臥。夫より起て、御飯戴、帰る。此日、天神さま認、又絹地桜ニかゝる。夜、読書。二更二臥。此日、京師寒伺出す。

\*せき(咳) \*あんし(案じ) \*せんして(煎じて)

(十一月) 廿五日

此朝もせきにてあしくゆへ、四ツ時迄臥。夫より御飯戴、梶木町え参り候処、講金、閏月、九月、十月、三月分、田淵さま、松田さま、安土さま、安土さま取次、四口参り候処、式歩天民え相代として宗隆さま相渡され、金壺両請取、夫より帰り、絹地桜認上ル。此日八ツ時、松山お姫さま天神さま御詣にて、御歩行にて見事也。夕、辻さまえ帰り、二更二臥。此夜も終夜せきいたし候。

\*せき(咳) \*せき(咳)

(十一月) 廿六日

此日、せきにてあしくゆへ、今一日養生するかよいと仰せられ候ゆへ、辻さまにて終日遊ぶ。此日、子たち、私留主中、昼迄居られ候。夜一更二臥。

\*せき(咳)

(十一月) 廿七日

朝、辻さまより帰り、終日作図、手本認ル。夕、辻さまえ帰り、三更二臥。

(十一月) 廿八日

朝、辻さまより帰り、作図する。夕、辻さまえ帰り、三更二臥。

(十一月) 廿九日

朝、辻さまより帰り、終日作図する。此日、楚瑞子、後藤え認物頼に見へる。夕、辻さまえ帰り、読書、手習。三更二臥。

(十一月) 晦日

朝、辻さまより帰り、終日作図する。此夕、辻さまえ帰り、読書、手習、三更迄。

(十二月)

十二月朔日

朝より後藤え行、認物頼む。暫珍談して、夫より玉屋万助様え家の祝に参り、夫より細矢え寒気見舞に行、貞順さま留主中、早々帰り、井上さまえ行、暫画の相談して帰り、又木津え行。此時、宗三さま居られ候。又貞順さま来られ候て、暫咄して帰り候。昼飯祝ふて、天王寺楚山先生え行、暫咄して帰り、木津え行、母さま病気見舞候処、少々よろしく、暫咄して帰り、日暮、辻さまえ帰り、読書。二更二臥。

(十二月) 三日

朝、辻さまより帰り、此日、京沢様、宮原、寒中見舞出ス。姉小路さまえ文出ス。此日、豊島さまえ細合知芳さま御こしにて、薄茶戴。画帖物認。夕、辻さまえ帰る。

(十二月) 四日

朝、辻さまより帰り、八ツ後より大風雨。井上さまえ行候処、内室風邪にて不逢。早速帰り、辻さまえ行、暫して釜懸、又読書。一手前して、二更二臥。

(十二月) 五日

朝、辻さまより帰り、此日、堺吉井より留主見舞羊羹参り、昼飯。辻さまえ行、夫より羊羹持参して、曾川さまえ見舞に行、早々帰り、夫より御堂筋近安え絹調に参り候処、あまり遠方にて、東御堂さまえ参詣致し、帰り候。此日、大風。帰り、法帖沢山認。夕、辻さまえ帰り候処、江戸より文来、伊掃部さまの事申来り、又姉さまよりも文来。此夜、新三郎さまおわるく候ゆへ、夜ナへなし。

(此夜、雪五寸計積ル)

(十二月) 六日

朝、辻さまより帰り、襖認にかゝる。此日八ツ半時より千日火事。此日夕方より木津え帰り一宿致し候。火事、一更前、止。

(十二月) 七日

此朝、帰り候と存し候へとも、あまり雨雪にて、終日遊ぶ。ほとき物する。七ツ後時より

辻さまえ帰り候。此日、木津智明院さま留主見舞来られ候へとも、留主中にて、木津え来られ候。

(十二月) 八日

朝、辻さまより帰り、終日襖認上ル。此夕、辻さまえ帰り、二更二臥。

(十二月) 九日

朝、辻さまより帰り、羽織圍入認、扇子三本認、草稿する。夕、辻さまえ帰り、読書。三更二臥。

(十二月) 十日

朝より、半切、後藤先生の美人認。夫より辻さまえ持参致し候処、今一応後藤さまえ御覽二入候方よしと申され、早速後藤先生え参り候処、先生、三日月屋敷え行れ候て留主中。暫見合せ候へとも御帰りなくゆへ、大蔵さまえ頼み置、帰り候処、建国寺御院主参られ候て、酒宴有。色々風流はなし致し候処、もはや日暮にて建国寺さま御帰り遊し候。此時、豊島お雪さま御こし遊し、此夜、内藤さまにて釜懸り候ゆへ、私を招きたくよし申て参り候ゆへ、御揃ひに参られ候ゆへ、早々御同道して内藤え行。一疊大メイにて、直江さま手前、客、豊島さま、お雪さま、私、三客、数馬さまも。後会席にて馳走。此時、香の催と有候処、もはや一更二て、又々重ねてと申て、皆々同道にて帰り候。此時、懸物大綱和尚、雪月花題にて前に哥と有候へとも、失念致し候。

しるやいかに月雪花の楽しみハ心ひとつの詠なりけり

読書、三更二迄。

\*大メイ(台目) 大綱和尚(大綱和尚) \*三更(二(ママ))迄

(十二月) 十一日

朝、辻さまより帰り、色々細々しき物認候処、後藤先生より御返事有、美人御きに入候よし候来。早々菊池堂え持参致し候。夕方帰り、此夜鳥羽屋え行やくそく、直江さま、御雪さまと致し、夕方より豊島さまえ参り候処、明夕に延引に相成候よし申来。豊島さまにて一更迄珍談する。夫より辻さまえ帰り、二更二臥。

\*御きに入(御氣に入) \*候よし(候(ママ))

(十二月) 十二日 カ

朝、辻さまより帰り、源氏紫式部認。此日昼時、京師より文来、十一日江戸より文参り、弥十二月七日江戸御発興あらせられ候よし申来、私、元之助、母さまも、みなく十九日頃上京致すやう申来り候。江戸父さまよりも文来、殿様江戸御用、大都合能首尾能相済候よし、めてたく候。此夕方より木津え文のよし申に帰り候。此夜、木津にて一宿。唯専寺

え行、一更二帰り候。

(十二月) 十三日

朝、中之島え帰り、此日、子たち書初習ハす。絹地額四季草花ニかゝる。此日、辻さま掃事にて、夜はやねする。

\*掃事(掃除) \*はやね(早寝)

(十二月) 十四日

朝、辻さまより帰り、額認ル。此日七ツ時頃、西村、太田参り、薩摩芋送られ候ゆへ、美人の画幸認て御坐候ゆへ、やる。夕、辻さまえ帰り、二更二臥。

\*やる(遣る)

(十二月) 十五日

朝、子達書初かゝせ候て、皆々大あかり。此日、終日額認。夕方より辻さまえ帰り、年取候て、お後室さま、皆々女斗、五霊さまえ詣して帰り、家内中酒宴済て、男連五霊さまえ参られ候。此時、雨中。二更二臥。此日、京師え文出。

\*大あかり(大上かり) \*五霊さま(御霊さま) \*五霊さま(御霊さま)

(十二月) 十六日

朝、雷鳴。辻さまより帰り、暫致し候処、大雨中。此日、額、昼過ニ落製する。雨、昼前止。屏風認ニかゝる。此夜一更前迄、内掃事する。夫より辻さまえ帰り、二更二臥。此夜、父さまより十二月四日出の文着。

\*掃事(掃除)

(十二月) 十七日

朝、辻さまより帰り、襖屏風落款して、短冊三枚、小紙四枚認、掃事する。夕、辻さまえ帰り、二更二臥。此日、山西え行、画の談事する。又井上さまえ行、京行いとま乞に行、暫居る。

\*落款(落款) \*掃事(掃除) \*いとま(暇)

(十二月) 十八日

朝、辻さまより帰り、掃事する。昼前よりかたこり候て、暫もしんほう出来ぬゆへ、隣家お雪さま、大根おろし付てもらい候て、よほとこり止。此日、新兵衛、襖屏風取にくる。此夕、元之助と同道にて、木津え帰り候処、異人のうハさいろくくと致し居り候ゆへ、母さま、先々上京ハ止るやう仰せられ候ゆへ、やめに相成候。此夜一宿、木津にてする。

\*掃事(掃除) \*かたこり(肩凝り) \*しんほう(辛抱) \*こり(凝り) \*うハ

さ(噂)

(十二月) 十九日

朝、木津より帰り、梶木町へ行候処、茶の稽古する。昼飯して、辻さまえ帰り、此時、上町火事。又辻さまより帰り、此日、方々へ歳暮出す。又京姉小路さまえ上京止の文出す。夕、辻さまえ帰り、読書。一更二臥。

(十二月) 廿日

朝、辻さまより帰り、いろく草稿認る。夕、辻さまえ帰り、二更二臥。

(十二月) 廿一日 カ

此日、辻さま餅つきにて、夜八ツ時より起、明六ツ時済。此時より一寸臥。日出より起て帰り候処、昼時より楚山先生へ行、暫咄して帰り、又今宮山口え歳暮に行、暫咄して帰り、木津へ行、又暫咄して帰り、夕方、辻さまえ帰る。此夜二更二臥。

(十二月) 廿二日

朝、辻さまより帰り、御画殿摸写ス。

(十二月) 廿三日

朝、辻さまより帰り、半切四枚認、昼後より井上さまえ行候処、掃事二(候)へとも、九畳にて、金三郎さま手前にて御茶戴。此時、中川来。御手前済て、南坐敷にて画の手本認、夕方迄。夕、辻さまえ帰り、読書、二更迄。

\*掃事(掃除)

(十二月) 廿四日

朝、辻さまより帰り、扇面三枚、扇子二本、横物一枚、絹地額面老松認。昼時、光園寺え講金集に行、帰り、画手本認。此日、京六条え文出。夕、辻さまえ帰り候処、一更前、小笠原図書守、船にて御着、夫より辻さまの門にて馬乗、御堂え行れ候。辻さま、唐津役人衆来られ、大さハき。済て、臥。

\*光園寺(光円寺) \*大さハき(大騒ぎ)

(十二月) 廿五日

朝、辻さまより帰り、全紙四季山水認。昼飯に辻さまえ帰り候処、京父さまより文来、今日の夜船にて帰坂之由、申来り候。夫より井上さまえ行、早々帰り、全紙梅認。内掃事いたし、夜、辻さまえ帰り、二更二臥。

\*掃事(掃除)

(十二月) 廿六日

夜明かた、父さま、典膳さま着致され、此時、雨中。辻さまえ着致され、辻さまにて方々土産物配分。此夜、典膳、木津え帰る。私、父さま、辻さまにて一宿する。

(十二月) 廿七日

朝、私、中之島え帰、内掃事致、父さま方々え御礼に行れ、木津え帰られ候。夜、辻さまえ帰り、臥。

\*掃事(掃除)

(十二月) 廿八日

此日、父さま、三之助、元之助、木津より帰られ候。私、昼後、井上さまより呼来、参り候処、リウモン、小紋、紋附小袖一枚到来。其より帰り、八ツ後より皆々木津え帰り一宿する。

\*リウモン(竜文)

(十二月) 廿九日 カ

朝、父さま、私、典膳、中之島え帰り、諸払致、掃事する。夕方、父さま、私、辻さまえ行、素麦呼れ、此夜、雨中、父さま木津え帰られ候。私、辻さまより帰り、内しまい事致し、三更頃に辻さまえ帰り候。典膳、中之島留主番。此日、豊島さま納釜にて、父さま行れ、良暫遊ハれ候。

\*掃事(掃除) \*素麦(蕎麦) \*しまい事(仕舞事)